

鳥海ダムだより



2005.1
第10号

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所



由利本荘市とともに

鳥海ダム調査事務所長

柳 町 俊 章

平成17年の新しい年を迎え、皆様にとりまして輝かしい年でありますことをお祈り申し上げます。

さて、去年は台風が10箇所も日本に上陸して多大な被害を受け、さらには10月23日に発生した新潟県中越地震や、年末の12月26日に発生したスマトラ沖地震の被害状況がテレビ等から報道され、心を痛めたのは私ばかりではなかったのではないかと思います。

地球規模の気候変動ではないかと言われるほど、最近の異常気象は驚くことばかりです。短時間に降る集中豪雨が全国的に多発したり、昨年夏の高温はやはり関係があるのでしょうか。

次のようなデータがあります。

日本全国の1,300カ所のアメダス地点の雨量データで、時間雨量100mm以上の発生回数を集計したものがありません。昭和51年～昭和60年（10年間）は平均2.2回／年、昭和61年～平成7年（10年間）平均2.3回／年、平成8年～平成15年（8年間）平均4.8回／年となっており、最近では2倍になっております。

また、過去100年間の日本の年降水量の経年変化を見ても、明治33年頃は多い年で1,800mm、少ない年で1,500mmであったのが、最近では多い年は1,900mm、少ない年で1,200mmと幅が広がる傾向にあります。

このことは、大雨の多い年と雨が降らない年

が、最近では多発していることが伺い知れます。

このような状況の中で、鳥海ダムは、子吉川の洪水被害の低減、水道用水の確保、子吉川の生態系や取水の安定のための流量の補給を目的に計画され、現在各種調査を実施しております。

昨年10月29日に開催された「社会資本整備審議会河川分科会」の審議を経て、子吉川の河川整備の基本となる「子吉川水系河川整備基本方針」が決定されました。

今後は、当面実施する河川整備等の具体的内容を定める「子吉川水系河川整備計画」を住民や学識経験者の意見を聴きながら検討することとしております。

鳥海ダムは、この河川整備計画に位置付けられる必要があることから、今後とも各種調査を進めてまいります。

そのひとつに、ダム建設に伴う調査、設計及び補償調整並びに事務所活動において、自然と共生し、地域と密着したダムづくりを通して、環境負荷の低減、社会への持続的発展に貢献することを目的に「ISO14001」の認証を取得しました。

今年是由利本荘市誕生の年です。

由利本荘市が益々発展していく中で、鳥海ダムの果たす役割を認識しながら職員一同努力する所存でありますので、今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成16年度 先例地視察 - 岩手県日向ダム - (9/1~9/2)

鳥海ダム建設事業における水没予定者を対象に、平成16年度の先例地視察が行われました。この視察は、将来の鳥海ダム建設に伴う移転者の方の生活再建対策を円滑に進めるため、毎年実施されているものです。

今年度は岩手県内の日向ダム及び網取ダム（共に岩手県管理）の2箇所を視察しました。

9月1日に実施された先例地視察には、百宅地区住民21名と鳥海町職員及び当所職員が参加し、日向ダム（岩手県釜石市）についての視察研修が行われました。

釜石地方振興局内で行われた勉強会では、職員の方から日向ダム建設までの経緯や当時の補償関係の貴重な話をして頂き、質疑応答の時間では、参加者から熱心な質問が相次ぎました。





平成16年度 先例地視察 - 岩手県網取ダム - (9/15~9/16)

百宅地区の女性を対象として9月15日に実施された先例地視察には、百宅地区住民13名と鳥海町職員及び当所職員が参加し、網取ダム（岩手県盛岡市）についての視察研修が行われました。

ダム近くの網取スポーツセンターで行われた勉強会では、盛岡地方振興局の方が作成した貴重な資料を基にして、ダム完成までの経緯や当時の苦労などを説明して頂きました。





鳥海町産業文化祭 (10/30~11/3)

10月30日から11月3日までの5日間、鳥海町の紫水館及びトレーニングセンターを会場として、同町主催の第19回鳥海町産業文化祭が開催され、鳥海町の農産物や特産品、文芸品等の展示や、講演等の各種行事が行われました。

10月31日には、鳥海ダム調査事務所も紫水館内に『鳥海ダムコーナー』を開設し、ダムに関するパネルや完成予定模型を展示するとともに、射的やカプセルすくい、シュリンクシートなどのゲームを用意しました。



鳥海ダムコーナー



法体の滝（秋）

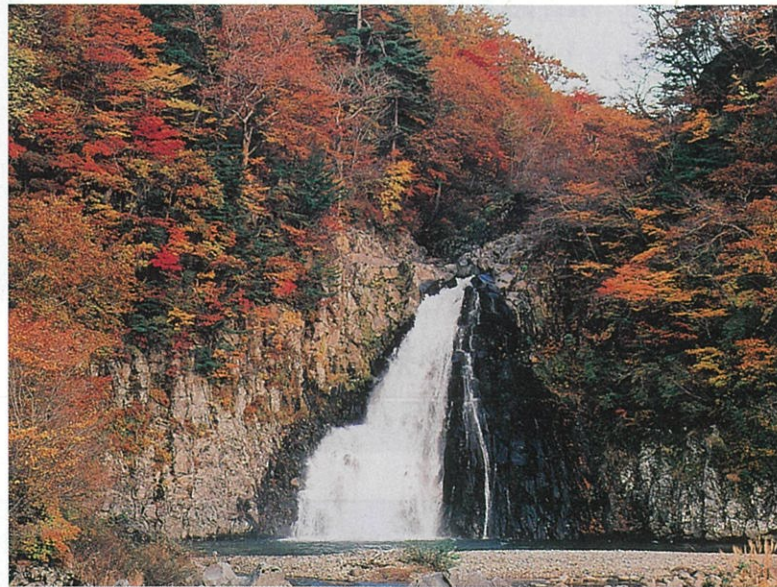
夏は鮮やかな緑に彩られた法体の滝ですが、10月の上旬頃から周りの木々が色付き始め、下の写真を撮影した同月の下旬頃には、すっかりと秋色の衣をまとっていました。



秋から冬にかけての時期に気温が低下すると、葉と枝の間に離層というコルク質の細胞層がつくられ、水や養分を運ぶ管が閉ざれて、葉の中に糖分が蓄積されます。

その状態が続くと、緑色の色素である葉緑素は生成されずに分解されて無くなり、代わりに葉に蓄積された糖分と太陽の光で赤色の色素（アントシアン）が生成されます。これがカエデなどにみられる紅葉のしくみです。

また、イチョウなどは、緑色の色素である葉緑素がなくなることにより、今まで見えなかった黄色の色素（カロチノイド）が現れ、黄葉と呼ばれます。



鳥海ダム調査事務所は「ISO14001」の認証取得を達成しました

鳥海ダム調査事務所が平成15年度からの目標としていた『ISO14001』の認証取得について、平成16年9月に実施された実地審査（最終審査）の結果、当事務所は『ISO14001』の規格要求事項を満たしていると認められ、国土交通省のダム事務所としては全国で初めて、認証を取得することが出来ました。

同年11月5日には、審査登録機関にて登録証授与式が行われ、柳町事務所長に登録証が手渡されました。

大きな目標を達成し、事務所職員はホッと一安心ですが、この成果に満足することなく、今後も環境の保全や悪影響の削減に取り組んでいきたいと思っております。

◀ 「ISO14001」の認証登録証



登録証を授与した柳町事務所長

編集 後記

鳥海ダムだよりをご覧の皆様、あけましておめでとうございます。鳥海ダム調査事務所の職員一同、心より新年のご挨拶を申し上げます。

今号では、昨年の秋から冬にかけて行われた行事を中心にご紹介いたします。上の記事でご紹介している『ISO14001』の認証取得については、詳細を当事務所のホームページに掲載していますので、そちらも是非ご覧ください。

今年も新たな話題を探して皆様にご紹介していきますので、鳥海ダムだよりをどうぞ宜しく願いたします。

編集・発行

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所

〒015-0074 秋田県本荘市桜小路32-1 TEL.0184-23-5120 FAX.0184-23-5451

ホームページアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/chokai/> e-mailアドレス chokai@thr.mlit.go.jp